

本県では、地域結集型共同研究事業を、「みやざき産業クラスター構想」を牽引する先導的かつ最大規模の研究開発プロジェクトとして位置付け、医療、農業、工業が連携し、地域が一体となって取り組んできたところである。

このような取組の結果、がん予防に関する基盤技術の確立やブルーベリー葉を始めとする食の機能性解明など数多くの研究成果を挙げ、新たな産業の芽となる優れた新技術が次々と創出されるとともに、コア研究室の整備や産学官の強固な研究者ネットワークの形成など地域 COE の構築に向けた研究拠点としての機能充実が図られたところである。

今後、これらの優れた研究成果の事業化を図るなど、バイオメディカル産業の創出に向けて一層取り組んでいく必要がある。

地域 COE は、本県が目指す「食と健康バイオクラスター」形成の拠点となるものであり、「フェーズⅢ」においても、その構築を最重要課題として位置付け、以下に掲げる「食と健康・バイオメディカル産業創造プロジェクト」を平成 21 年 1 月からスタートさせるなど、今後とも県産業支援財団を中心とした取組を積極的に進めていくこととしている。

食と健康・バイオメディカル産業創造プロジェクト

(1) 事業目的

医農連携による新産業創出を目指す「地域結集型共同研究事業」の研究成果の事業化を図るため、科学技術振興機構の支援終了後の平成 21 年 1 月以降も共同研究や技術移転を推進することにより、地域企業の新商品開発、ベンチャー創出及び新規企業立地等を促進し、バイオメディカル産業の創造を図る。

※ 「バイオメディカル産業」とは、疾病予防・治療・健康維持など「人の健康」に着目し、先端的なバイオテクノロジーを駆使して製品の製造や開発を行う産業分野。

(2) 事業概要

地域結集型共同研究事業で県産業支援財団に整備したコア研究室を発展的に改組した体制を同財団内に設置する。

これを拠点に企業・大学・県立試験研究機関と

の共同研究等を推進し、研究成果の事業化を図る。

(3) 事業費

140,000千円

※ 複数年にわたる研究の推進や優秀な研究員の確保を図るため、財団の3年分程度の運営費の一部を補助する。

(4) 事業効果

優れた機能性が科学的に確認された健康食品などが商品化され、農業から工業に至る本県独自のバイオメディカル産業群の形成が進む。また、ATL や肝がんなど様々な疾病の予防・治療技術などが進展し医療水準の向上につながる。

食と健康・バイオメディカル産業創造プロジェクト

(財)宮崎県産業支援財団のコア研究室を発展的に改組した新たな研究体制を財団内に整備し、財団を中心として、企業・大学・県立試験研究機関との共同研究等を推進し、研究成果の事業化を図る。

事業費 140,000千円

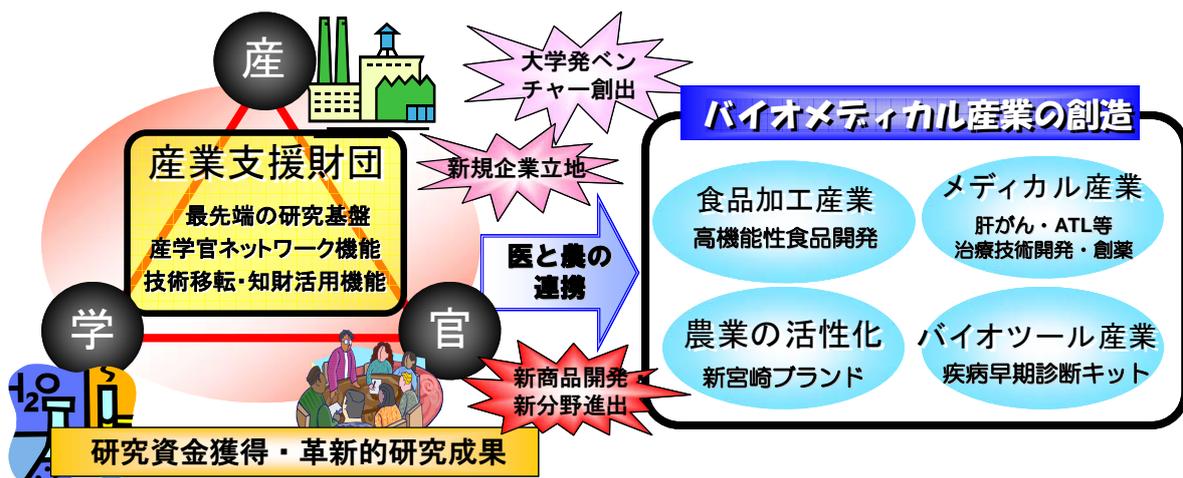


図 3-4-1 プロジェクト概要図